

平成 27 年 3 月 31 日

プログラム名：核変換による高レベル放射性廃棄物の大幅な低減・資源化

PM 名：藤田 玲子

プロジェクト名：反応理論モデルとシミュレーション

委 託 研 究 開 発

実 施 状 況 報 告 書（成果）

平成 2 6 年度

研究開発課題名：

核反応データコンパイル

研究開発機関名：

国立大学法人北海道大学

研究開発責任者

合川 正幸

当該年度における計画と成果

1. 当該年度の担当研究開発課題の目標と計画

1. 実験情報の収集・データ入力

全体会議やその他研究会、担当研究者の招聘及び訪問等により、実験の情報を収集する。特に各担当研究者との連携体制を構築する。

2. 過去のデータ調査・入力

論文調査、特に Pd-107、Zr-93、Cs-135、Se-79 に関する調査を開始する。

3. 新形式の開発

XML を用いた新形式の基本設計を行う。

4. 検索・利用システム開発・テスト

検索・利用システム開発を開始する。書籍情報など、データベース化及び検索キーワードが特に容易な部分のシステムを優先的に構築する。

2. 当該年度の担当研究開発課題の進捗状況と成果

2-1 進捗状況

本研究開発を推進する特任助教の公募・選考を実施した。平成 27 年 4 月 1 日に着任する。また、項目別の進捗状況は下記の通りである。

1. 実験情報の収集・データ入力

全体会議やその他研究会などを通してプロジェクト 2 の研究者から情報収集を行い、連携体制の構築に努めた。

2. 過去のデータ調査・入力

すでにデータベース化されている核データの調査を実施した。また、平成 27 年度に実施する論文調査内容について議論した。

3. 新形式の開発

XML を用いた新形式の基本設計を行った。また、プロジェクト 3 他グループとの連携をスムーズに行うため、シミュレーションプログラム実行用コンピュータを導入した。

4. 検索・利用システム開発・テスト

検索・利用システム開発を開始した。

2-2 成果

1. 実験情報の収集・データ入力

全体会議やその他研究会などを通してプロジェクト 2 の研究者から情報収集を行い、連携体制が構築されつつある。その情報収集を基に、平成 27 年度に実施するアンケート調査の内容を整理した。

2. 過去のデータ調査・入力

すでにデータベース化されている核データの調査を終えた。今後実施する論文調査の内容が固まった。

3. 新形式の開発

XML を用いた新形式の基本設計が完了した。プロジェクト 3 他グループとの連携をスムーズに行うためのコンピュータ環境が整った。

4. 検索・利用システム開発・テスト

既存のシステムを基に、改良点等について整理した。

2-3 新たな課題など

ミューオンによる核反応など、新たなアイデアの核変換に関して必要なデータの種別を調査する必要があることが分かった。今後プロジェクト内でアンケート調査を実施する。

3 . アウトリーチ活動報告

特になし。